

カメムシ類の発生に注意 適期に防除して斑点米を防ぎましょう!!



7月上旬の水田畦畔における斑点米カメムシ類の生息密度は、イネ科雑草の穂が付いている所での発生が多く、全体として平年より多くなっています。現在早生品種では出穂期をむかえています。出穂とともに、カメムシ類の水田内への侵入量も増加するので、穂揃期と糊熟初期の2回防除を徹底しましょう。

1 防除対策

- 薬剤防除は、第1回目が穂揃期、第2回目が糊熟初期の2回防除が基本です。
- カメムシ類の発生が多い場合は、さらに収穫14～7日前に追加防除を行う。
- 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- カメムシ類は、水田の畦畔雑草地にもいるので、本田防除の際は畦畔も含めて防除する。また、雑草の多い水田や休耕田等の雑草地に隣接している水田では、カメムシ類の発生が多くなるので防除の徹底を図る。
- 出穂後の草刈りは、カメムシ類の水田内への侵入を助長するので、行わない方が良い。
- ニカメイガが多い地域では、ニカメイガにも登録のある農薬を使用して同時防除を行う。
早生品種ではニカメイガの防除適期(7月5半旬頃)がカメムシ1回目の防除時期とおおむね一致する。
- いずれの薬剤もウンカ類との同時防除が可能である。

2 防除薬剤

(1) 粉剤・液剤

(2) 粒剤

防除時期	IRACコード 薬剤名	収穫前日数	IRACコード 薬剤名	収穫前日数
(早生・中生) 第1回目：穂揃期 (出穂3～5日後頃) 第2回目：糊熟初期 (出穂10～14日後頃)	4A アルバリン粉剤 DL★	7日前	2B キラップ粒剤	14日前
	4A スタークル粉剤 DL★		2B ワイドパンチ豆つぶ(+)もち	35日前
	4A ダントツH粉剤 DL★	7日前	4A ダントツ粒剤	7日前
	4C エクシード粉剤 DL	7日前	4A サジェスト微粒剤 F(+)もち・紋枯	21日前
	1B スミチオン粉剤 3DL★	21日前	4A アルバリン粒剤	7日前
	3A トレボン粉剤 DL★	7日前	4A スタークル豆つぶ	7日前
	3A MR. ジョーカー粉剤 DL	7日前	・粒剤は薬剤によって散布適期が異なるので注意する。 ・粒剤の散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、自然落水する。	
	4A ダントツ707Aフル	7日前		
	4C エクシード707Aフル	7日前		
	4F エミリア707Aフル	7日前		
	1B スミチオン乳剤★	21日前	・粒剤の散布時は水深3cm程度の湛水状態とし、自然落水する。	
	2B3A キラップジョーカー707Aフル	14日前		
	3A4A トレボンスター707Aフル	14日前		

★はニカメイガにも登録あり

稲の生育時期に差があるので、生育に合わせて、防除適期を逃さないようにしましょう!

◇◇◇ 最新の農薬登録情報 (<http://pesticide.maff.go.jp>) を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室

連絡先 0776(54)5100

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>

QRコードをスキャンしてください →



農薬の飛散に注意しましょう

農薬の安全使用に努めて適期防除しよう